

会報

発行所

広島市中区八丁堀11番28号
朝日広告ビル4F

広島県高等学校
PTA連合会

電話(082)223-3347
FAX(082)223-3351

HP hiroshima-koup.sakura.ne.jp



広島県高P連

NO. 167

令和元年度 広島県教育委員会 意見交換会

令和元年十一月二十九日、広島県教育委員会事務局教育長室において、令和二年度要望書の提出と県教育委員会との意見交換を行いました。

昨年度までは、県教委からすべての項目について説明回答していた、だいておりましたが、六〇分という限られた時間では十分な議論ができないとの意見もあり、今年度は特に県高P連が喫緊の課題としております。◎ICT機器を活用した教育について、◎スクールカウンセラーの配置、◎空調設備の設置基準についての三項目に絞って懇談会形式としました。



県高P連からは、伊福会長、総務委員合わせて十五名、県教委からは平川教育長、関係課長、担当者合わせて九名が出席しました。

初めに伊福会長の挨拶、平川教育長の挨拶に引き続き、三回にわたる総務委員会での会議を経て、皆様からいただいた要望事項を、八項目にまとめた要望書を会長から教育長に手渡ししました。

続いて久保田副会長から、県高P連の活動状況、並びに岡田総務委員長から話し合いを三項目に絞った経過と理由の説明を行い、県教育委員会関係課からの説明があり、それぞれについて意見交換を行いました。

一 学校の活性化について

(一) ICT機器を活用した教育について
「学びの変革アクションプラン」に基づき、課題発見解決学習において生徒が主体的に学ぶ力を育成するためにはICT環境の整備充実を図る必要があると考えている。児童生徒がICTを活用する機会を増やすことが必要不可欠と考えている。

六月に文部科学省から「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」が出され、学校のICT環境や先端技術の活用は必要不可欠なものであるとされた。

二〇二五（令和七）年には児童生徒一人に一台の占有の学習用コンピュー

タを整備することを目指すことが明確にされた。

こうした国の動きに合わせ、一部の県立学校において来年度の新入生から順次、教育活動に使用する生徒用コンピュータを保護者の負担により導入することを検討している。

県教委も県立学校の動きに合わせ、来年度当初予算で学校の取組を支援するための予算、教員用パソコン、プロジェクター、研修費用、また貧困世帯の対応策など予算要求するべく検討している。

また、各学校が導入する機器等の費用も各校単独で契約するより、一括契約の方が安くなる。各学校と調整し県教委で一括して調達することも検討している。

引き続き県の目指す姿にICT機器は文房具、机と同じで必要不可欠なものになっている。

① 質疑応答

高P連 保護者負担はどれぐらいの金額か。

県教委 機器代・七ギガの通信費すべてを含み月三千円〜四千円程度を考えている。

携帯を持たなくても済み、七ギガあればYouTubeやLINEも対応でき、家で使っても学校で使ってもよい状態である。

高P連 貧困世帯への対応策は、三千円〜四千円を県が負担するとうことか。

県教委 財政局との折衝である。所

得によつては給付なども考えていきたい。

高P連 来年度から新入生を対象に機器の導入を考えているとのことだが、新二・三年生についてどのように考えているのか。

県教委 保護者に二年間、一年間で負担してもらおうと(月額が)高くなるので難しい。まだどうなるかわからない。

情報教室のデスクトップのコンピュータの更新は、ノートパソコンにしてノートパソコンとモバイルルータを整備し教室で使えるように考えている。

高P連 現在、広島国泰寺高校理科コース一年生に一人一台持たせ、問題点の把握や、セキュリティをどこまでするかなど検証中である。いづれにしてもこれからの時代不可欠なものであるため、月々三千円の保護者の協力をいただきたい。

高P連 貧困世帯に支給する場合は心のケアを考えていただきたい。

高P連 今年度導入し試験運用している高校で保護者から実際に活用しているのが見えてこない、月三千円支払う価値があるのかとの意見があり、指導する先生方の活用の仕方や研修など来年度から導入するのが気になる。

県教委 導入した学校に見学に行ったが、導入した学校の校長が「全員が持つてないので全体的には使いくいが指導していく中で早めに活かせるようにしていきたい。」と話していたので充実

していきたい。

整備については予算取りをしているが、並行して研修についてもシミュレーションをしている。

三、四年かけ教員全員に活用する能力をつける研修をプログラムしている。併せて教育センターにも講座を組んでもらう。

佐賀県では五年前から一人一台やっていた。先生より生徒の方が修得が早いので、先生にも能力をつけていただく。貧困家庭については、奨学給付金を申請する家庭の子供にと考えている。

三 心の問題や発達障害に対する支援について

高校生段階で悩んでいる子供たち生徒や保護者の皆様には、様々な不安要素や悩みがあると思っている。その中で学校においては教育相談体制の充実が非常に重要であると考えている。

スクールカウンセラーの配置拡充というのは、今年度も高等学校において十校拡充し、現在五十校ということだ。またすべての学校に配置されていない。

来年度の配置拡充については準備を進めているところであるが、一度にすべての学校というのは難しいという状況がある、その際には当課にスクールカウンセラーのスーパーバイザーを二名配置をしており、スーパーバイザーは臨床心理士会の中でも非常にいろいろな体験をお持ちで知識も豊富な方をお願いしている。必要に応じて各学校の課題が明らかになったときは即座に緊急派遣をさせていたとき、今年度も何校かに一定期間安心な状況になるまで



緊急派遣して臨機応変に対応させていただいている。引き続き配置拡充に向け努力をしていく。

〔質疑応答〕

高P連 各学校に養護教諭がいますが専門的分野になるので全員は難しいと思いますが、養護の先生方がカウンセリングに対応できる体制は今検討をしていくのか。

県教委 養護教諭にも教育相談におけるカウンセリングの手法をそれぞれの研修講座で学んでいただいている状況である。保健室は一つのオアシスであり子供たちが悩みを打ち明けるとしても大切な場であると考えている。そういった研修も進めていきながら、養護教諭だけでなく全ての先生がそういうカウンセリングマインドを持ってもらおうという

高P連 先生方にも共有意識を持つて

もらいたい特別なものでないとの先生方にも意識してもらおうということか。

県教委 住む学校という考え方があり、スクールカウンセラーだけでなく、スクールソーシャルワークという福祉の視点からの環境への働きかけも考えている。

高P連 生徒指導主事研修等でそういう視点を学んでいる。そういった状況が来たときに各市町の福祉部局と連携をしていく方法も学んでいた。

高P連 生徒からの相談件数、内容等の把握はどうされているか。

県教委 スクールカウンセラーの相談は一年間でまとめている集約をしている。悩みについては、さまざまあり、子供たちには、いじめなど嫌な思いをした人間関係があるとか、あるいは学校の中の人間関係、ただでなく、自分の学力の悩み、進路の悩み、家庭の中の悩みなど項目分けして把握している。

高P連 難しい悩みがさまざまであるので、その場合違った所への相談をしているか。

県教委 生徒や保護者に御了解を得て必要な場合には医療機関での受診もお願いをしたり、紹介をした

りしている状況である。

高P連 県教委から現在スーパーバイザー、スクールカウンセラーを派遣していた話が出てくるが、保護者の方のケアの話が出てくる。その対応はしていた話か。
県教委 学校の方から声をかけていた

令和2年度 要望事項

1 学校の活性化について

学校教育の活性化を図り日本一の教育県実現のための取組をお願いします。

- (1) 中山間地域小規模校は小規模校ならではの特色ある学校づくりや地域と密接した関係を持ち活性化を図っています。引き続き地域の学校として理解と支援をお願いします。
- (2) ICT機器を活用した教育が必要不可欠です。本県は全国的にみて機器の整備は遅れています。速やかに全校に充実したICT環境の整備を行い、機器を活用した効率的・効果的な教育を進めるようお願いします。
- (3) 高等学校定時制・通信制課程における教育について、少人数指導や生徒一人一人を尊重した、教育活動が引き続き行われるようお願いします。
- (4) 特別支援教育について、近年児童生徒が増加し、施設設備が不足しています。教育環境整備並びに教員の増員により、個々に応じたきめ細やかな教育を効果的に進めるようお願いします。
- (5) 教員を増員し業務負担の軽減を行い、子供一人一人と向き合う時間をさらに確保をお願いします。また、教務事務支援員が教員の業務負担軽減に大きな効果が表れています。教務事務支援員の全校配置と勤務時間増をお願いします。

2 卒業後の進路の取組強化について

好況により求人倍率は伸びていますが、自分の能力や適性にあった職が分からないまま就職し、3年以内に離職する生徒も少なくありません。キャリア教育の更なる充実により生徒の職業観・勤労観を育てるとともに、生徒に適した就職先確保の取組をお願いします。

特別支援学校卒業生の進路の取組をしていただいているところですが、いまだ進路先の確保に困難なところがあります。企業・施設等受け入れ先拡充のより一層の取組強化をお願いします。

3 心の問題や発達障害に対する支援について

いじめ、心の悩みやストレス、発達障害、災害等によりカウンセリングを必要としている子供が多数います。

スクールカウンセラーを増員して頂いていますが、引き続き希望する学校への配置と相談時間の増加及び緊急時における臨機応変の派遣をお願いします。

4 児童・生徒が安全で安心して通える教育環境の推進について

児童・生徒が安全で安心して通える教育環境の推進をお願いします。

- (1) 老朽化した校舎・施設・設備及び劣化したグラウンドの改修工事の取組をお願いします。

特にアスベストについては、災害によりアスベストが飛散する恐れがあり、早急に撤去してください。

老朽校舎の改修工事の施工にあたっては、ヒアリング・実態調査を行い、バリアフリー化を進めるとともに、工事計画の周知をお願いします。また、トイレについては洋式化を早めてください。

特別支援学校については、児童生徒の増加に伴い学校施設設備の充実を図ってください。

- (2) 可動式スポットエアコンを全普通教室に設置いただき感謝しております。昨今の猛暑による熱中症対策、学習環境の改善のため、引き続き、教室、準備室等へのエアコンの設置並びに据え置き型エアコンへの交換、また、PTA設置のエアコンを県に所管替えし、PTA負担をなくしてください。高等学校が国の大規模改造（空調（冷暖房設備）事業（学校施設環境改善交付金））の補助対象になるよう働きかけをお願いします。

- (3) 児童・生徒の安全確保のため、登下校時の安全対策（通学路の改修、街灯、防犯カメラ等）が図られるよう、広島県はもとより市・町及び関係機関と連携した取組をお願いします。

- (4) 災害はいつ発生するかわかりません。在校中に発生した場合に対処できるように防災備品等の備蓄をお願いします。

- (5) 過疎地の交通機関は大幅に減便され、生徒の学校生活に支障が起きています。通学にかかる交通機関の確保のための支援をお願いします。

- (6) 教職員の飲酒運転・セクハラ・体罰等の不祥事が後を絶ちません。未然防止へのより一層の取組と教職員の資質向上の取組をお願いします。

5 いじめ防止について

命を大切に教育を充実させるとともに、いじめの未然防止のための取組をお願いします。また、いじめが発生した場合は、当事者等の尊厳を損なわないよう心情に配慮し学校のみならず保護者も含めた関係者全員による意見交換の場と積極的な情報開示をお願いします。

6 部活動活性化への支援について

部活動は人間形成に有意義です。運動部・文化部ともに生徒のニーズに応じた指導者の配置、環境整備等、部活動活性化の支援をお願いします。

- (1) 希望する全ての部への外部指導者の配置をお願いします。更に指導回数の増加をお願いします。また、外部指導者のデータバンクを整備するなどし、各校の外部指導者の選考がスムーズに行えるよう御配慮くださるとともに小規模校の部活指導者について格段の御配慮をお願いします。
- (2) 施設・設備の充実及び器具等の予算措置をお願いします。

7 各校PTAへの理解と支援について

PTAが運営する食堂・購買事業について、各校とも厳しい状況となっております。引き続き県立学校運営費（自動販売機特別枠）の各校への配分をお願いします。

だいたら対応する。

四 児童・生徒が安全で安心して通える教育環境の推進について

(一) 空調冷暖房設備について

特別教室・準備室等へのエアコンの設置については、騒音対策、健康面・衛生面に配慮が必要な教室へ整備を行っている。それぞれの学校の実情を把握の上、必要性が高いと認められる箇所について引き続き整備を行ってまいりたいと考えている。また、PTA設置のエアコンの県への所管替えについては、厳しい財政事情の中、校舎等の老朽化対策など安全面の対策を優先的に実施していく必要があることから、当面公費による負担は困難であるが、

教育環境の改善、防災機能強化の観点から今後どのように空調設備の整備を進めていくことが可能なのか今後慎重に検討進めていく。

なお、空調設備に関する国への要望

については、全国都道府県教育委員会連合会を通じて、体育館等を含めた空調設備の設置について、高等学校についても国庫補助の対象にするともに、そのランニングコストも含めて地方財政措置の拡充を図るよう要望を込めている。

【質疑応答】

高P連

県で設置できないから子供たちのためにPTAが経費を負担しエアコンを設置している。

県教委

子供たちのために会費を上げて設置している。設置したときにお金がかかるが、そのほかランニングコストや、将来的に壊れた時のための準備金として積み立てている。それが税務署から収益事業とみなされて税金を取られるとしたら本末転倒である。

高P連

最初である。税務署もまた判断がでていない。税務署によって担当者によって違っている。県内でも違っている。また結論が出てないので学校と連携していく。場所によれば、室外機・配管が邪魔になるので工事をするためエアコンの配置を変える。その時にお金がかかるがPTAが設置したのだからPTAが負担しなさいとなる。そのための準備金ですようになる。それに税金がかかるとしたら会員にどう説明してよいかわからない。

高P連 御配慮をお願いしたい。

本年度、外壁塗装工事が入っており移設を外して元に戻す工事に三百万円かかった。三年前に千万円かけて新しいエアコンに更新した。すぐ後に外壁塗装をするので外してくださいといってきた。

大規模改修工事は学校にこの年にやるとかはないとしても、中期的なものがあるとして連携ができれば一年でも二年でもPTAのエアコンの更新をずらしたり、施設も同時にできないかと思つた。学校全体の予算から言えば微々たる三百万円かもしれないが、PTAの予算の中から三百万円を積み立てるのは何年もかかり、皆さんからお預かりした大事なお金なので無駄に使わないようにしたいので御配慮いただけないか。

県教委 外壁等のリフレッシュ工事は全面に設計を行うので、今の実情は早くて三年ぐらい前から設計にかかる状況がある。今の話を受けて今後気をつけていきたい。

高P連 エアコンの積立金は高校によつて違うと思うが、一校あたり何千万円というところもあると思う。それに対して課税され税金をいくら払うのか。ある高校が税金を払うことになれば全県百十一校すべてが払うことになり、社会に問うべき話だと思つている。深刻な問題で困惑している。額も大きく、慎重に協議していくべき問題である。こう

いう事実があるということを知つていただいて、どういう形で行政に関わつてもらつて、どんな形で子供たちのために何ができるのかという考えで財源の有効活用できる方向性を見出すという道筋が決まれば有難い。国レベルの問題と思うが、県教委としても検討し、いい知恵をいただければと思つている。

フリートーク

高P連 子供を健全に育成していく中で、武道の言葉に心技体という言葉があるが、このすべてが揃わないと健全な成長とは言わないのではないかと思う、心は何かと言えはスクールカウンセラー、学校で言えば先生方の技術を教えていく。

技術を教える設備がほとんど整えているが、実際子供の心を育てていくことにもっと向き合つていかないとコミュニケーションができないので考えていた。心は育つていく。心の教育が重点的な取り組みが必要になつてくると感じた。

県教委 子供たちのそれぞれの不安感だつたり、子供だけでなく私たち大人も社会が急激に変化する中でいろいろな悩みを抱えていたりする方は多いかと思う。その中で教育活動全体で、子供の中に心ある人間性をどう育てていくかは、今回の学習指導要領の改訂の中にも一つ大きなポイントとしてある。その一つが教育課程全体でどんな力をつける

かを各学校でそれぞれ校訓であるとか、これまで積み重ねてきた伝統を含めて、校長先生をはじめ学校全体で明確にどんな力をつけるかというところが今考えられているところである。一番大きな要因として、どういふふうな心を繋げていくかという部分になると思うので生徒指導という形だけでなく学校の教育活動全体の部分でどんな力をつけるかを県教委各課では様々な視点でとらえながら、心を繋げるといふことを考えていきたい。

高P連 高P連ではあいさつ運動に取り組んでいる。昔荒れていたある高校で今挨拶を徹底的に指導して素晴らしい学校に変身している。難しいことを考えるよりも高校生にまずは、社会に出てのコミュニケーション能力というところで、挨拶ができれば何でもできるというあたりのことを、この学校をモデル校として取り組むというのはどうだろうか。この学校は就職についても企業からの信頼があり、有名企業からの求人がたくさんきている。広島県が取り組むべきところの一つの起点があるのではないかと考えている。いろいろと取り組むことはあると思うが、まずは挨拶からではないかと思つている。

高P連 高校はないかもしれないが小学校の特別支援教育は不可欠になつている。高校にもなつてくると、自閉情緒学級などは特別支援学校でなく高校に行きたいとの保護者の願いが強くなつていく。スクールカウンセラーが足りないのはよくわかつているが、特別支援教育、スクールカウンセラーのところでは心のケアもあるが、高校でも特別支援教育の充実を図つていただきたい。学びの変革でコミュニケーションをとりながら課題解決していくことがある。高校の先生の授業を見てみると前で授業を進めている。コミュニケーションをとりながらにするとなつて学級経営とか子供同士の関わりの充実を図つていきながら学びの時もかわらせる必要がある。学習の方でICTの充実もあるし、一方でかわりの中で学級づくりの両方で充実させないと資質能力の伸ばすこととコミュニケーションのバランスが高校でも図つていく必要があるのではないか。県教委も研修等でバックアップしていただきたい。

高P連

要望事項の中にもあるが三次地区の学校である。通学で交通機関JRを使う生徒が多い。先月、芸備線も全線復旧して大変喜んでるところであるが、現在は学校に通う子の時間帯に合っている時間帯であるが便が少ない。

広島、向原、吉田、三次からきている生徒、広島に出る生徒がおりもう少し便があればと思う、電車のない時間はバスも考

えられるが、いい時間のものが無くなっている。交通機関の増便についての動きは学校各市町も一緒になってする必要がある。県教委からも支援をしていただけるのか、今後協力してやっていきたいと思っている。これはお願いということ聞いていた、できればと思う。

県教委

ダイヤ改正の時、JR等でよくあるのが学校の始業時間・終業時間を考えずに改正されることが時たまある。ダイヤ改正の時に高校に情報が入ったときは一緒にやってJR・バス事業者にある程度改正が決まりかけていてもお願いに行っている。学校とも連携をしてやっていきたい。

最後に平川教育長から、ハード面ソフト面、学力、心の問題などさまざまあり、学校だけでは、あるいは教育委員会だけでもなしえないと思っっている。学校と家庭と地域と総ぐるみで新しい時代に向かっている。お互い協力しながら進めていければと思っっている。随時忌憚のない意見をいただきたいと話され会が終了いたしました。

以上、例年とは違う形式で行いましたが、とても有意義な意見交換の場になりました。

なお、これらの項目以外についても引き続き県高P連として声を上げていき、すべての子供が安心して生活できる学校づくりに取り組んでまいります。

(総務委員長 岡田快之)

令和元年度 学校視察

とき 令和元年十二月五日〜六日

視察校 香川県立多度津高等学校・香川県立高瀬高等学校
香川県立香川西部特別支援学校

十二月五日、六日の両日で広島県高等学校PTA連合会伊福会長外、連合会副会長、調査広報委員会委員、総勢十一名により「香川県立多度津高等学校」、「香川県立高瀬高等学校」、「香川県立香川西部特別支援学校」の計三校の視察研修を行いました。

両日とも天候に恵まれ、熱意ある教職員の方と、元気で明るい生徒さん達とお会いでき、二日間、充実した視察研修となりました。

【香川県立多度津高等学校】

十二月五日午後より最初の訪問先、多度津高校へ訪問いたしました。多度津高校は大正十一年に設立された香川県立多度津工業高等学校と昭和十二年に設立された香川県立多度津水産高等学校が平成十九年四月に合併し、開校しました。令和三年度には多度津工業時代より数えて創立百周年を迎えようとしています。

PTAについて、統合は年次進行で行ったため、多度津工業高校、多度津高校のPTAは最初から統合スタート。多度津水産高校は閉校と同時にPTA活動に幕を閉じられました。現在来年



の創立記念事業に向け、記念行事部会、記念誌部会、メモリアルホール部会の三部会に分けて準備を進められているとのことでした。

現在、校舎はかつて多度津工業高校であった柴町キャンパスを中心に、半径二キロ圏内に各科の実習場や、各クラブの練習場のある堀江キャンパス、東グランド場や、クラブで使う船の車庫、艇庫などがあり充実した設備で日々学ばれているそうです。

設置学科は(令和元年度現在在校生数

全日制課程に五九一名)

工業科・

機械科 二年次より(機械・電気機械・造船)コースに分かれる

電気科 二年次より(電気・電子)コースに分かれる

土木科 県内唯一の(工業系)土木科

建築科 建築施工の現場監督、設計士を目指す

水産科・

海洋技術科(航海技術・機関工学)コース 海技士免許の取得を目指す

海洋生産科(食品化学・栽培技術)コース 定時制課程に二十六名

機械科 電気科 があります。

工業科に地元の造船業が盛んな事もあり平成二十九年春から『造船コース』が設置されました。

生徒の通学範囲は、学校が多度津駅前に隣接とJRの利便性が良いことから、岡山県内、小豆島、愛媛県四国中央市、香川県東端からと非常に広域から通学されているそうです。

校内見学の際、主に機械科の生徒さんが課題授業に取り組まれている様子を少し拝見できました。

十二月末、岡山で行われるゼロハンカー大会を目前に車両のメンテナンスが行われている最中でした。ゼロハンカーは原付のエンジンを自分たちが作成したフレームに載せた、自作バギーの様なものだそうです。メンテナンスを行われていた生徒さんの中に女の子が一人だけいらっしゃいました。「まだゼロハンカーに乗ったことがないの

で、早く運転してみたいです」ととても熱い気持ちを語られていました。

そのとなりの建物でも課題研究プロジェクト、海上自転車車が停車していました。九月に今治市で水上自転車競走レースに出るため、勝つためにギア比を設定し大会に備えていたようですが、実際漕いでみるとペダルが重すぎて漕げないことに急遽部品を注文し改善するのに部品が届いたのは大会会場現地にぎりぎりだったそうです。

その結果、二台中ホワイトオクトパス号が企業チームには及ばずでしたが、二位と大健闘だったそうです。

その他、電子機械コースの課題研究授業では3Dプリントで出力してドローンを自作する授業など、可能性の限りアイデアを出して課題に取り組む経験は生徒たちにとっても豊かな知識を得られる環境を生み出されていると感じました。

土木科は工業土木科としては香川県内唯一の設置学科だそうで、県内外の多くの建設会社、官公庁で卒業生が活躍されています。

水産科では、訪問した時期も海洋技術科一年生十名が遠洋航海実施中でハワイに向かつて実習船『翔洋丸』で出航から二週間、丁度ホノルルへ着く頃でした。海洋技術科は船乗りを養成する学科であり、船の自動車学校と言うイメージだとおっしゃられていました。その他ダイビングやマリンスポーツなどを学習します。

海洋水産科では、食品科学コースで地元のスーパーと連携して商品を販売したり（ハマチの中骨の加工品）、コ

ースのツナ缶のレシビを業者が再現、多度津高ブランドとして発売予定だったり、県漁連依頼でハモのかば焼レトルトパウチを開発しています。

栽培コースではサツキマサや鮎をスモルト化して養殖を行ったり、地元特産のオリーブを食べさせたりオリーブウニの養殖を行ったり、過去の事例がないサヨリの養殖に取り組んだり、地域の企業からのニーズが有る事で、そこから学ぶ事によって開発のスペシャリストとしての担い手の一歩を踏み出せ、卒業後に即戦力になれる力をつけることを日々切磋琢磨されている様子を聴き、伺うことが出来てなんと頼もしい学び舎だろうと感激いたしました。また、学校と地域の親交の高さが地元経済の活性化に繋がるだろうなと思えました。

多度津高校では平成十九年に統合した際、『Dream Challenge Jungled (DCJ)』を教育口ゴとして採用し、『清明強和』の校訓のもと、自ら学び、考え、行動する意欲や能力の育成、夢や理想に向かってチャレンジする精神や能力、



自然との共生を考えることのできる人材、勤労観・職業観のある人材の育成を目指した取組が行われています。

主な取り組みの中で、エコハウスの作製では栄町キャンパスの中庭に、建築科の課題研究が主となって取り組まれました。間伐材を用いて四畳半ほどの空間を持ったハウスを作製し、電力は風力発電、太陽光発電でまかない、雨をタンクに貯めて花への散水に利用する取り組みをされました。ため池浄化プロジェクトでは、香川県は全国でも広島に次ぐため池の多さですが、昨今水質悪化が問題に。多度津町と連携し町内のため池の水質改善に取り組み、チャレンジグリーン活動では、学校の建物周りにグリーンカーテンを設置し電力消費の抑止に務めたり、アルミ缶プルタブ回収運動では、アルミ缶を回収し八百kgを業者に送るとアルミ製の車いすと交換してもらえるので、町内の老人ホームに寄贈されたり（PTA協力）この取り組みが功績を認められて、平成二十九年春に第二十六回「地球環境大賞」で文部科学大臣賞を受賞されました。

クラブ活動も盛んで、今年度国体にて、ウエイトリフティング部で個人少年男子一〇二kg級のスナッチで優勝、トータルで準優勝。レスリング部では少年フリースタイル六五kg級で五位、九二kg級で三位に入賞、などそれぞれの運動部で素晴らしい功績を残されています。

文化部の生物科学部では、水生生物を部員たちが育てて、地域交流として小学生を招待したり、偶数月の第二日

曜日にはミニ水族館を一般公開されています。

生物科学部の交流は他にも、幼稚園生を多度津高校体育祭に招待し、踊りを踊ってもらったり、幼稚園に向いて、夕涼み会で音楽を披露したり、幼稚園の体育祭のお手伝いをしたりしています。

漁業との交流でも真鯛の稚魚の放流を幼稚園生に放流のお手伝いをしてもらったり、建築家の生徒が多度津小学校で木工教室を開きネームプレートを作ったり、缶詰マシーンを使って小学生の子たちの卒業制作を缶詰に詰めてタイムカプセルを作ったあげたり、常に学校生活と地域とのコミュニケーションが絶えない事にとっても驚いたと共に、かなり高い関心を抱きました。

コミュニケーションスクールの取り組みが広島県でも今年度よりスタートしていますが、多度津高校は既にしっかりと地域と高校の絆が根付いていて素晴らしい関係を築かれていらつやいます。

進路としては七割は就職、進学は三割ですが、工業科にだけ進学コースがあります。高確率で国公立大学に合格されている実績があるとおっしゃられておりました。国公立大学や私立大学のAO入試や推薦入試によって進学した生徒が進学先で困らないように、三年時に数学七単位、英語七単位、物理四単位の授業及び毎日の課外を卒業時まで行っておられるとのことでした。

多様な選択があり専門科を進むとポイントを深くつかめる学習環境はとても魅力的で地元との交流も多く、常に

地域と開けた環境にある多度津高校は常に真つ向から真剣に取り組まれている様子を伺うことが出来ました。

しかしながら多様故に、決して入学時は楽ではなく、厳しくて嫌だけれど、一年経つと慣れていき、自分の思う進路へ生徒たちは進めていくとのことです。厳しいからこそ後々未来でその苦労が生きてくる、離職率が低いということへ繋がっているということが言えるのでしよう。

最後に校内新聞に先生が書かれていた言葉が心に残ったので載せておきます。「全力で制作し、全力で漕ぎ、全力で応援する。それでもうまくいかないこともある。だから心に残り、だからこそもの作りは楽しいのだ(機械科海上自転車プロジェクト班記事より)」。技術だけでない、人間性もしっかり多度津高校の中で学び、未来へ育まれるのだろうなと感じ、校内でいきいきと生きている生徒さんの目の輝きを視察から戻つても再び想い出し、高校で子供たちの夢が沢山これからも育まれていくように、今回の視察を活かせられたらいいなと思いました。

(調査広報委員 榎 泰代)

【香川県立高瀬高等学校】

二日目のはじめの訪問は、香川県立高瀬高等学校です。

高瀬高校は香川県の西部三豊市にある全日制普通科の高校で普通コースとスポーツコースがあり、普通コースを理系コースと文系コースとに分け、国立、難関私立大学への進学を目指す総合クラスを設け一学年四クラスとな

っています。

スポーツコースは全員運動部に所属し将来選手としての道や指導者を目指したり、スポーツに関わる仕事を希望する生徒のクラスです。

また、高瀬高校は県教育センターによる「協働的な学習におけるICTの活用に関する調査研究」の研究協力校に指定(平成二十八、二十九年度)され、県下高校初の総合クラスで一人一台タブレット端末を利用し、県下初のclassi利用校ということでした。



校訓「信・愛・望」の精神のもと確かな学力と豊かでたくましい心身を育て、個性を伸ばし、広い視野と主体的な行動力を備えた人間の育成に努めるという教育方針で校長先生はじめ先生方は熱い思いで子供たちとの関わりを持っておられる印象を受けました。

高瀬高校が目指す人間力を高めるために四つの力を示し指導されているそ

うです。①自ら学ぶ力の代表的な取り組みは、ICT教育の推進、投げかけ



られたテーマについてタブレットを使い自分なりに考えをまとめていく、どんな資料を使えばいいか、その理由はどのような考えに基づいているか、他の事がらとの因果関係はあるのか、タブレットの中で整理してプレゼンができそれをお互いに評価し合う、そのような授業を行うことで自ら学ぶ力を養う。②人を元気にする力として、スポーツコースには専門体育という授業があり、講師に来ていただきダンスを練習しています。それを校内の文化祭や体育祭で披露し、地域の文化祭やお祭りなどでも披露して若い力が躍動する姿を見ることが元気になっていただく。③人と繋がる力としては、地域の老人福祉施設や保育所などへボランティア活動に行き、地域の方と交流する、また校内の人間同士の繋がりとして挨拶運動をしているようで、毎朝、クラス、部活単位で校門に立ち挨拶しています。挨拶は人とのコミュニケーションの第

一步なので挨拶運動を大事にしているそうです。④人のために行動する力としては清掃活動、高瀬クリーン作戦を年二回通学路、駅、駅トイレ、学校周辺、池の周りなどの清掃を行なっているそうです。このような四つの力をはじめとした人間力を身につけていくことで、勉強、部活動、生徒会活動、行事に真摯に取り組み結果を残し、人に喜んでもらえることで自己肯定感、自身を持つことができる。その上で進路を決め実現のため考え、実行、努力できる力を持てるよう取り組んでいるそうです。スポーツコースのある学校なので部活動も活発です。本年度では、女子バスケットボール部がインターハイ、ウインターカップ、新人大会の全国大会出場、陸上部、ソフトテニス部もインターハイ出場者有り、カヌー部女子は全国八位と優秀な成績をおさめています。そして高瀬高校に訪問してまず、授業見学をさせていただきました。各学年の総合クラスによるICT教育の授業です。始めに見たのは、二年生の世界史Aです。「近代に起こった出来事で、最も今の世の中に影響を与えたこと」について考えます。三、四人のグループで一つ題材を決め、それについての資料を探し、考え、それをグループで共有し、まとめて発表する。これを一時限のなかでやるので、タブレットありきの進め方、まとめ方であると思います。また、ロイロノートというアプリを使用されています。発表は見られなかったのですが、産業革命から坂本龍馬の新婚旅行へという発表をしたグループがありました。三

年生は公民（政治・経済）です。テーマ「起業案をグループでプレゼンシアアイデアを伝える」です。女子グループのプレゼンはスマートフォンを製造販売する会社の起業です。より販売できるであろう「嵐」と提携した商品を開発、資金調達、資金の使い道、宣伝、どのように販売するかなどタブレットに作成した資料をプロジェクトに投影し、また最後は音声入りのコマシヤルも作成し興味あるプレゼンをしていました。

一年生は数学Aの授業です。数学は条件付き確率という単元です。資料問題を生徒に配信してあります。三、四人のグループで考え、正面に大型テレビで問題や解答を投影します。グループの答えを送信します、先生のタブレットでは個人の答えも確認できている、タブレットでの板書が大型テレビに投影されます。

一グループごとの解答を開きながらそれぞれのグループがどのように考え答えを導き出したのか見ていきます。



見学のあと応接室にて校長先生から学校概要を説明いただき、担当の先生からはICT教育関連のお話を聞かせていただきました。

二〇一六年に同窓会から予算をいただき、一台三万円弱のタブレットを五十台購入、五台が壊れて現在四十五台、先生十台、生徒用三十五台とレンタル百八台あるそうです。

先生のものにはsimを入れて通信できるものもあり、それ以外はwifiルーターを使用。生徒用のレンタルはソフトバンクのアンドロイド端末だそうです。P Cルームには四十台のパソコンがあり、校内LANもあります。タブレットは携帯回線のwifi接続だということです。

電子黒板は一台、プロジェクター六台、大型テレビ一台、持ち運びできるパソコンが一台あり。担当の先生はiPad proにApple TVを使用して通信スピードは非常に早いそうです。導入後のよかつた点は、多くの生徒の意見が反映できる、間違えたときのフィードバックがしやすい、アクティブラーニングのベースになること、プレゼンテーションを一人でできることを挙げられました。

授業以外でのタブレットの活用は、classi、主に連絡手段として、そのほか自主学習で動画を見たり、ドリルやWebテスト、家庭学習時間の把握、各自がネットでの検索、部活動の動画などで活用されています。

classiはコミュニケーションツール、生徒管理、進学先管理ができる、ポートフォリオとして何をしたら

どんな活動をしたか知識を得たか蓄積できる。また、先生が毎日日報を配信している、学校の状況がよくわかると保護者に好評になっていくそうです。

また、先生はタブレットは道具だと思っていると仰っています。使い方に個人差があり、先生がノートや板書を配信してそれをいかに使うかで習熟度は変わってくる。どの授業でも使っているわけではないのでタブレットの活用に濃淡があり、しっかり活用しようという意識はまだ全体に広がっていないとのこと。

先生方の研修としては、いろいろな資料を見ているが特別な研修に参加せず自学自習で、知識を広げていくために二、三人が核となって研究してきたそうです。

経済面では、総合クラスのタブレットを使用している生徒は月二〇〇二円の負担、持っていない生徒は年六〇〇円の負担をして使っているそうです。

私自身、ICT教育の知識がほとんどない中だったのでとても興味がありました。一時間で三クラスを見学し一部分ずつしか見れなかつたのが残念でしたが、先生方の取り組みの御苦労や、生徒たちが反応よくタブレットを使った授業をこなしていると思いました。

今の時代に対応する教育でありながら、現場に取り入れることの難しさはあるが、子供たちの柔軟な姿勢、新鮮な発想などを活かせる素晴らしい教育だと思ふので、どんどん広げていきたいと思ひました。

（調査広報委員 岡本香代）

【香川県立香川西部養護学校】

視察研修二日目、最後の三校目は香川県立香川西部養護学校へ訪問させて頂きました。香川西部の観音寺市内にある、知的障害と肢体不自由の小学生から高等部まで全校九十三名の児童、生徒さんが在籍されている学校です。香川県内には養護学校が九校あり、そのなかのひとつである小規模な学校です。まずは、それぞれ自己紹介のあと、学校紹介のスライドを見ながら御説明がありました。



小学部では、生活の基礎となる力をつけることを目的としています。食事、着替え、排せつなど身の回りのことが自分で出来るように取り組んでいます。教科の学習や生活単元学習では一人一人の実態に合わせた多様な活動を工夫し、物事に対する興味や関心を広げています。また、遊びの活動では友達や教師と楽しい活動を共有する中で、進んで人と関わろうとする力を育てています。

中学部では、生活経験を広げ集団活動が進んで出来ることを目指しています。心も体も大きく成長する中学生は、日常生活を送るうえで健康な体や体力づくりも行います。国語や数学、音楽などの教科学習では、実際の生活に

役立つ基礎的な知識や技能を身に着け、生活単元学習では、体験的な学習を重視し生活する力をつけていきます。また、作業学習では、働くことへの興味や意欲、最後まで努力する態度を育てています。

高等部では、社会技術に必要な働く力や生活する力を育てています。毎朝スクールバス以外に自主通学生が自転車やJR、徒歩で元気に登校してきます。社会生活を身近に控え、縫工、木工、紙工、窯業、農園の作業学習など職業教育の充実にあります。さらに、年二回、一年生では校内実習、二、三年生では校外での現場実習に取り組みます。そして、就職や福祉サービス事業所の利用など卒業後の進路を決定していきます。また放課後の活動として、自主通学生を中心に対外スポーツ大会に向けた練習に根気強く頑張っています。



肢体不自由をあわせ有する児童生徒の学級さくら組は、自立活動を教育課程の中心とした指導を行っています。ひとりひとりの実態にあわせ、体の動きに関する学習を毎日継続して行っています。運動会と、学習発表会是一年の中で大きな行事です。保護者や地

域の方などたくさんの方の前で元気に発表します。

子供たちが地域の中で生活していくことを目指して、交流及び共同学習に力を入れていきます。地域の小中学校へ行き交流の輪を広げていきます。また、観音寺総合高校の生徒さんには、子供たちがスイッチを押すことにより、車を動かすことが出来る補助機器や、玉入れのための玉が飛び出す装置など、授業や行事で役立つ機器をプレゼントしてもらっています。また西部養護学校を卒業した生徒さんは福祉サービス事業所、自宅近くの会社などで社会人としての生活が始まります。また、多くの方が同窓会に加入し一日バス旅行などに参加し楽しく過ごすこともあります。このような教育活動を通して、児童生徒ひとりひとりの個性を大事にしながら、人を愛する豊かな心を育み、その心をもとに健康に生活できる力や、社会の一員としてたくましく生きていく力が育つことを願っていますとのお話でした。

ここまでの学校での取り組みのお話をお聞きした後、校内参観と施設見学をさせていただきました。校内の廊下の幅もととても広く、整理整頓もされていました。教室の中を見ると、一日の流れが児童生徒に分かりやすいように、構造化し見通しを持って一日を過ごす工夫、また発達障害には視覚優位の特徴を活かした視覚支援、切り替えの困難さのある子供に対してはタイムタイマーを使って、残り時間が分かり徐々に切り替える工夫がありました。また、高等部が作業学習をしている

教室も見学しました。窯業教室では、細かいところまでこだわった精度の高い焼き物が並べられていました。賞をとられたという迫力ある鬼瓦は校長室に飾ってありました。学習発表会や地域のお祭りにも販売し、すぐに売切れるほどの人気ぶりだそうです。木工教室も使いやすいように道具をおさめる場所をきっちり決め、作業スペースも整然と片付けられていました。木工教室隣には、畑もあり白菜やかぶが植えられていました。農業グループが畑で収穫できた野菜を地域へ販売し、これも大人気ですぐに完売するそうです。



このように作業学習を通して、様々なことを学んでいます。職業的な技術を習得することももちろん大切ですが、決められた時間きっちり働くこと、働く意欲を育てることをとても大切に行っていると、校長先生が仰っていました。校内を見学した後は、再び視聴覚室に戻りご説明を受けました。

香川県特別支援教育についてです。平成二十五年に特別支援の就学に関する

仕組みが大きく変わり、以前は特別支援学校対象になるような重度の障害を持つ子供も、地域の特別支援学級にも通えるようになりました。障害のある子供も、障害のない子供も同じ学校で学ぶことが出来るというインクルーシブ教育が推進されています。(広島県では、また就学指導委員会で就学先が決まることになっている。)

最近よく話題になっている高機能自閉症、学習障害などを持った子供が通常学級に在籍しているが、そういう子供たちの支援を充実させていくために、通級による指導を行っている。(知的を伴わない場合は、支援学校へ入ることは出来ない。)統計的には、十人に一人の割合で発達障害を持った子供がいるので、その子供たちは何らかの支援を必要としています。

西部養護学校の児童生徒さんは、観音寺市と三豊市から通っています。スクールバスで通っている子が二台のバスで四十三名、他JRや路線バスを利用したりして通学しています。障害の状況は、自閉症を持っている子供が二十八%、身体障害を伴う重複障害の子供が十六%、医療的ケアが必要な子供が四名在籍している。常勤看護師一名在籍。教育方針は、明るく、たのしく、げんきよく、という事で自立と社会参加を目指しています。小学部、中学部、高等部と連続性を持って、少しずつステップアップして継続性も持つて育てていきます。特に、小学部では基本的な生活習慣を身に着けること、中学部や高等部では働くことへの意識、意欲、体力、マナー、持続力、コミュニ

ケーシヨン、身なりなどを身に着け、卒業後仕事に就いていけるように支援をしていくように考えているということです。保護者や関係機関との連携については、家庭訪問や懇談会、親の会の活動などを通じて連携を密にしておられる。同じ活動をしていても一人一人何を学ぶかという目標は違い、その手立ても違うので個別に応じた個別の指導計画、教育支援計画を立てて、保護者と共有して支援をしています。

防災に関する対策について伺いました。年三回の避難訓練、全国一斉のシエイクアウト訓練にも参加しています。防災備蓄品はベースト食や普段服用している薬も三日分は準備しています。また、学校が観音寺市の福祉避難所として活用していくための協議をしているところですが、一般の避難所で過ごすことが難しい子供を受け入れていく方向で話を進めておられます。

非常災害等の緊急連絡のために、民間のメール配信サービス(ミッターメール)を導入しています。非常災害の時だけではなく、学校の活動の様子や行事の周知などにも利用しているとのこと。特別支援学校のセンター的機能についてもお話がありました。西部養護学校に学んでいる子供たちだけではなく、地域の学校へ行っている障害のある子供たちの支援も行っています。昨年度から高校の中にも通級が出来ました。広島県でも施行されました。通常の高校へ通っている発達障害を持つ子供さんへの対応を行っていくために、地域の小学校、中学校、高校と連携を図ります。新しい取り組みとしては、昨年

からALTとの外国語活動、「ポツチャ」の体験授業、また外部講師を招いての消費者教育、性教育、スマホ安全教育、身だしなみ教育など専門家による授業を行うことで、より実践的な学習ができています。

支援教育を行うにあたり困難なことについては、施設の老朽化や生徒数増加のため教室が不足しています。放課後や休日に支援してもらええる福祉施設が不足していると、細川PTA会長さんも悩まれていました。広島県も特に山間部では、施設がなくて困っている状況は同じだなと感じました。西部養護学校の保護者の方も、施設を誘致する陳情書を提出する活動もされています。またPTA活動への参加も決まった保護者になっており、全員が楽しめる行事を考えているが難しい、もっと多くの保護者や子供が参加できるPTAにしていきたいと話されていました。

今回の、西部養護学校の視察研修を通して障害のある子供さんの力をつけるため、また落ち着いて学習に取り組めるように、様々な先生の工夫が詰まっていると感じました。養護学校で取り組まれてる個々の状況に応じた個別支援、何を伸ばすのかを考える視点は、どの子供を育てるのも共通していると思います。

広島県でも、障害の有無に関わらず同じ地域で学び、障害があっても社会へ自立して参加していくことを希望します。(調査広報委員代理 永井麻美)



令和元年度 第二回単P会長研修会

とき 令和二年一月十八日(土)
ところ 広島YMCA国際文化ホールほか
参加者 各単位PTA会長・副会長 一―五名

令和元年度第二回単P会長研修会が、令和二年一月十八日(土)十三時より、広島YMCA国際文化ホールほかで開催されました。まず最初に開会行事がありました。

松永高等学校木村昌樹会長による開会宣言に続き、出席者全員による国歌斉唱の後、広島県高P連伊福聡会長が、会員の皆さんに、今年度、広島で開催される中四国大会について、説明、協力のお話があり、研修会の流れを説明されました。

続いて、広島県教育委員会事務局教

育部生涯学習課社会教育監吉岡康行様の来賓挨拶があり、広島県教育委員会では、学びの変革の全県展開へ向け、学習環境の整備、学びのセイフティネットについて取り組んでいく旨を話されました。

次に、研修行事に入り、調査広報委員会林和枝委員長より、「宝物を探しにいこう」をテーマに、令和元年十二月五日(木)六日(金)の日程で「香川県立多度津高等学校」「香川県立高瀬高等学校」「香川県香川西部養護学校」以上三校の先進校訪問について報告がありました。



各校の素晴らしい取り組みや、特色を調査広報委員の安芸高等学校校榎会長、可部高等学校岡本会長、庄原特別支援学校永井副会長の三名によるスライドショーで紹介しながら、各校の特色ある授業や部活、行事等よくわかり、興味深いものになりました。

次は、講話です。「こどもの心の理解」思春期を中心に「をテーマに、臨床心理士岡田幸彦氏にお話しいただきました。

思春期について、五つの時期に分け

てお話があり、前思春期(小学校高学年)、思春期前期(中学生)、思春期中期(高校生)、思春期後期(十八歳〜二十歳)、後期思春期(二十一歳)、最近は三十歳まで思春期だと言われているみたいです。その中から、保護者の立場から、思春期中期の時期から、両親の愛着は弱まる。自己愛の増大に伴い、自己の過大評価、尊大さや両親への反発などが表現されるようになる。身近な同性との付き合いは色あせたものを感じる。異性と恋愛が現実的に、今の高校生に当てはまることの現実で置き換えて講話を聴かせていただきました。

また、子供の心の成長には、ほどこ良い養育者の存在が必要、的外れでもなく、完璧でもない、時に失敗しながらも真摯に子供と向き合う大人が心の成長に必要な、と感じました。



最後に、人は生涯にわたって自己愛を満たしてくれる対象を必要としている。共感し、心理的ニードを読み取って満たしてあげる。それが、「見守る」ということが大切と話されました。

その後は、四階の会場へ移動し、

参加者が八つのグループに分かれて、分散会が実施されました。特にテーマを定めずに、各校の課題や悩みなどを話し合うものです。最初は初めてお会いする方も多く静かでしたが、司会の久保田県高P連副会長のユーモアな司会で皆さんの緊張がほぐれて、各校の問題点をゆるす限りの時間の中で意見交換をいたしました。

分散会終了後は、再びホールに集まり、「広島県高P連高校生総合保障制度」についての説明が保険会社東京海上日動火災(株)よりありました。高校生の補償事案の中でも、特に自転車事故は身近である上に、近年は、運転者(加害者)である生徒側に対して、賠償額が一億円近くになる例も発生しているとのことでした。そうなった場合には生徒や、その家族の人生も変わるようになるので、その備えとして、この保障制度は必要であると実感しました。終わりに、閉会行事があり、閉会のことばをもって、今回の研修会が終了しました。この度の研修会では、半日という短い時間ではありましたが、たくさん学びがあった上に、各校の方々から、お話を聴くことが出来て、大変、有意義でした。本日の学びを、今後のPTA活動に役立てていきたいと思えます。

最後に、この度の研修会の開催にあたり、お忙しい中、参加されました皆さま、大変お疲れ様でした。また、企画運営いただきました関係者の方々に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(調査広報副委員長 大下公一)

令和元年度 第2回常任委員会

令和元年度第2回常任委員会が、令和3年3月19日(木)15時30分より広島YMCA3号館2階多目的ホールで開催されました。3月2日より新型コロナウイルスによる感染症対策の一環で国内の小中高校の一斉休校が始まり、県内でも混乱を来している中、第2回常任委員会の開催も危ぶまれましたが、時間短縮、室内換気(空気清浄機の設置)の徹底、消毒薬の設置、ゆとりのある机配置等を心掛け、開催いたしました。伊福県高P連会長挨拶のあと、事務局より、本日の出席者数が構成員の半数(構成人員数89名、出席者数30名、委任状提出者数40名)を超えており、会則第11条の規定により、常任委員会が成立する旨の報告があり、協議事項にうつりました。各議案について県高P連役員から報告、説明がありました。令和2年度定例総会提出議案として、委員の皆様にご承認いただき、無事に委員会を終えることができました。(県高P連事務局)

令和2年 県高P連行事予定

- 6月11日(木) 令和2年度県高P連定例総会(広島県民文化センター)
- 6月25日(木) 第1回幹事会・第1回常任委員会(広島YMCA 本館4階会議室)
- 7月10日(金) 第62回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会広島大会
(広島市 広島市文化交流会館 広島文化学園HBGホール)
- 8月1日(土) 令和2年度第1回単P会長研修会(広島YMCA 多目的ホール外)
- 8月8日(土) 広島県高等学校PTA連合会進学説明会(広島県民文化センター)
- 8月20日(木) ~21日(金)
第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会(松江市 くにびきメッセ外)
- 11月2日(月) 全県一斉あいさつ運動

※令和2年度は広島県高等学校PTA連合会広島県大会は開催いたしません。
令和3年度は予定しております。(担当 福山地区)

広島県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

この制度の特徴

〈高校生総合保障制度は、団体総合生活保険のペットネームです。〉

- 1. 団体割引25%適用・損害率による割引20%適用** (天災危険補償特約保険料には損害率による割引を適用しません。)
- 2. 病気・けが・賠償事故・携行品等を補償**
- 3. 国内外を問わず24時間の傷害・病気等を補償**
 ○携行品(学校管理下動産補償特約)の補償は学校管理下中のみです。
 ○夜間・休日も24時間事故の受付をしております。
- 4. 「メディカルアシスト」で24時間・365日無料各種医療に関するご相談に応じます。**
 ○また、夜間の救急医療機関や最寄りの医療機関をご案内いたします。
 ※詳細はパンフレットをご確認下さい。
 ※補償期間(保険期間)は1年となります。(令和2年4月25日午後4時より令和3年4月25日午後4時まで1年間)
 ※中途加入は補償期間が異なります。詳しくは取扱代理店までお問合せください。

〈保険金額と掛金(保険料)〉

補償内容		W3タイプ	W2タイプ	W1タイプ	Aタイプ	Bタイプ
個人賠償責任 (記録情報限度額 500万円)	国内	1事故 無制限	1事故 無制限	1事故 1億5,000万円限度	1事故 1億5,000万円限度	1事故 1億円限度
	海外	1億円限度	1億円限度	1億円限度	1億円限度	1億円限度
国内示談交渉サービス付き						
病気入院 (1日あたり)		5,500円	5,000円	4,000円	—	—
傷	死亡・後遺障害	365万円	324万円	319万円	269万円	234万円
	入院 (1日あたり)	6,000円	5,500円	4,740円	4,000円	3,000円
	手術	上記入院日額の10倍(入院中の手術)、5倍(入院中以外の手術)				
害	通院 (1日あたり)	3,500円	3,500円	2,500円	2,500円	1,400円
	地震・噴火・津波	○	—	—	—	—
	熱中症	○	○	○	○	○
	細菌性食中毒	○	○	○	○	○
携行品(学校管理下動産補償)		1年で20万円限度	1年で20万円限度	1年で10万円限度	1年で10万円限度	1年で10万円限度
自己負担額：1事故3,000円						
被害事故補償		1事故3,000万円	1事故2,000万円	1事故1,000万円	1事故1,000万円	—
育英費用		200万円	150万円	100万円	100万円	50万円
地震・噴火・津波		○	—	—	—	—
制度維持費		350円				
掛金 (1年分)		17,000円	15,000円	12,000円	10,000円	7,000円

○携行品の損害保険金は1年間でW3、W2タイプは20万円限度。W1、A、Bタイプは10万円が限度となります。
 (注)携行品の損害保険金のお支払額の合計が保険金額(W3、W2タイプは20万円限度；W1、A、Bタイプは10万円)と同額となった場合は、この携行品の補償は損害発生時に終了します。
 ※制度掛金は制度維持費350円を含んでおります。
 ※上記保険料は職種別Aの方を対象としたものです。お子様(被保険者-保険の対象となる方)が継続的にアルバイトに従事している等で、職種別Aに該当しない場合は、保険料が異なりますので、取扱代理店にお問い合わせください。
 ※病気になる(入院医療保険金)について：新規加入時の支払責任の開始日より前に被った病気については保険金お支払いの対象となりません。(ただし、新規加入時の支払責任の開始する日からその日を含めて1年を経過した後に生じた保険金支払事由については、保険金お支払いの対象となります。)

このご案内は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

〈お問合せ先〉取扱代理店 ㈱東京海上日動パートナーズ中国四国本店 TEL:0120-018-217 令和2年3月作成 <19-T06914>

〈引受幹事保険会社〉



東京海上日動

(担当支社) 広島支店 広島中央支社
 広島市中区八丁堀3-33 広島ビジネスタワー
TEL 082-511-9194

パンフレット・重要事項説明書は上記お問合せ先にご請求下さい。

〈共同引受保険会社〉



AIG 損保

AIG損害保険株式会社 広島支店
 広島市中区基町12-6 富士火災広島ビル
TEL 082-535-6010

この保険契約は、上記の保険会社による共同保険契約であり、東京海上日動火災保険が他の引受保険会社の代理・代行を行います。各引受保険会社は、契約締結時に決定する引受割合に応じて、連帯することなく単独別個に保険契約上の責任を負います。なお、引受割合につきましては、団体窓口にご確認ください。
 〈引受保険会社〉 東京海上日動火災保険(幹事保険会社) AIG損害保険株式会社